月刊 まち・コミ 2008年9月号

● インフォメーション ●http://park15.wakwak.com/~m-comi/
出石市民農園、丹波黒の枝豆購入による活動支援をお願いしております。詳しくは同封のチラシにて。

● 今月の注目記事 ● P１～P３　専修大学の学生がやってきた　～社会調査士を目指して～

今回の「月刊まち・コミ」は、今年で３年目となる専修大生による御蔵での調査を、学生の視点から報告します。参加者の宮下真優奈さんと猪谷彰子さんが、記事と写真を担当してくれました。

専修大学の学生がやってきた ～社会調査士を目指して～

▲調査中

▼お礼のカレーパーティー

私たち専修大学社会学専攻の学生15人と大矢根淳教授、TA（先生の助手）1人は、社会調査実習という授業の一環として今回長田区御蔵通を訪れました。

●社会調査って？

社会調査とは、社会の経験的・実証的研究を進めていくための必要不可欠な研究方法のひとつであり、社会学では不可欠な現実認識の手段です。そして、社会的要請に応えられる能力に対して認定された人材が、社会調査士なのです。社会調査士にはさまざまな調査を企画、実施、集計・分析し、調査レポートの取りまとめやプレゼンテーションなど、社会調査実務担当者としての充分な能力が必要とされます。私たち学生の中にも、社会調査士の資格取得を目指している人がいます。

●授業では･･･

社会調査実習の授業は毎週水曜日の3限目に行われ、「阪神・淡路大震災の復興」というテーマを基に各自で自分のテーマを設定し、調査しています。御蔵を訪れるまでの3ヵ月間は、主に専修大学の教授であり、まち・コミの運営委員でもある大矢根先生から震災に関する専門知識を埋め込まれ、まち・コミの初代代表である小野さんからは、震災当時から今に至るまでの御蔵の話をうかがってきました。時には小野さんの話は授業終了後も続くことが・・・。更に授業内の話が終わった後も、それぞれの関心に合わせて個人的に小野さんに話を聞きにいく人も多くいました。授業は1時から2時半なのですが、6時まで小野さんの話を聞いていたこともあります。そして話を聞いたり文献を読んだりしていく中で、自分の興味や関心に基づいて調査企画書というものを7月までに何度もつくり直し、それを片手に私たちは御蔵へやってきたのです。

●いよいよ調査実習

今回、私たちが行った調査実習は7月28日～30日の3日間で行われました。合宿の一連の流れをここで紹介します。

（1日目）

東京から神戸まで約3時間かけて新幹線で来ました。東京の暑さとは違い、神戸の暑さはカラッとしていました。ホテルにチェックインして、兵庫駅から御蔵にある自治会館である古民家までみんなで歩きました。区画整理された御蔵の街を実際に見てそれぞれ感じたものがあったようで、口々と感想をこぼしていました。

▲御蔵に到着し、ほっと一息

古民家に到着してから、まち・コミュニケーション顧問の田中保三さん、代表の宮定章さん、スタッフの戸田真由美さんとお会いして、宮定さんからスライドを用いて阪神大震災について説明をしていただきました。それから、市民社会研究所所長の今田忠さんからはNPOについて、株式会社ＵＲサポートの田中貢さんからは震災と共同建替え住宅についてお話をしていただきました。

1日目の夜から、各自ヒアリングを開始しました。ヒアリング作業では、音声を録音して後で活字化する作業のことです。内容としては、震災直後の自分、家族の状況や、当時困ったこと、そして震災を体験していない人に何を伝えたいかを聞きました。

（2日目）

各自で別行動でした。朝から、長田神社で小学生に交じってラジオ体操をしたり、御蔵のまちを歩きながら、震災の傷跡が生々しいクスノキを見たり、慰霊碑「鎮魂」の前に立って光を当ててみたりしました。また、古民家では、神戸大学大学院生の渡邉俊一郎さんから、まち・コミが行っている台湾への古民家移築計画の話を聞きました。

そして、2日目は、修学旅行生への震災学習をされている語り部さんを中心に、ヒアリングをさせてもらいました。（語り部さんのヒアリング内容が今月号から毎月載せられるそうです）夕方からみんなで周りの方々への感謝の気持ちをこめて大鍋でカレーを作りました。サラダとデザート付です。そして、ヒアリング調査に協力してくださった御蔵の方、語り部さんたちを招待してカレーパーティーを開き、楽しい時間を過ごしました。

（3日目）

古民家で、月刊まち・コミの郵送作業をし、午後からは解散になりました。そこからグループに分かれ、真野地区へ行った人は真野まちづくり推進会の清水光久さんからお話を聴かせていただき、一方は人と防災未来センターへ行きました。更に希望者4人は、そのまま御蔵から車で約2時間かけて出石農園に行きました。その日の夜には、農園の広井さんから2004年に起こった出石での台風水害の話を聴きました。

▲真野の清水さんにヒアリング

4日目の朝、早朝5時に起き、作業を開始しました。草取りや林檎のカバー取りなどを15時まで行い、出石温泉館乙女の湯へ行って農作業の疲れを癒しました。とても短い期間でしたが、充実した時間が過ごせました。

●調査実習を終えて

現地に調査へ行ってそれで終わりではありません。夏休みが明けた最初の授業では、ヒアリングに協力してくださった方にお礼の手紙を書かせていただきます。またヒアリングの内容は、各自が夏休み中にテープ起こしをして活字にします。その活字化したものや私たちの調査報告書が、3月頃に一冊の冊子にまとめられます。

●学生に率直な感想を聞きました。

◇自分ばかりではなく他人を思いやる気持ちを直に感じられました。温かく楽しく話していただいて本当に感謝しています。（尾田）◇神戸を訪れ皆さんが想像以上に明るいと感じました。皆さんと別れ人と未来防災センターを訪れたときは一同唖然とし、なぜかまた皆さんに会いたくなりました。無知であることに恐怖を感じます。御蔵の皆さんから明るく前向きに生きようという力をいただきました。（山下）◇短い中でも沢山の大切なことに触れられました。被災した事によって得られたものもあるという言葉がすごく印象的でした。もっと知識を深めて、また御蔵を訪れられたら光栄です。（遠藤）◇御蔵という地は一見すごく人工的な町でしたが、御蔵の方はとても明るく僕にないものを持っていました。御蔵で感じたこと、起きたこと、見たことすべてが僕の今後の人生に活かされます。人と未来防災センターで感じたあの感情は一生忘れません。（山田）◇この二泊三日はとても濃いもので、インタビューを受けてくださった方、神戸に行くまでに指導やサポートしてくださった方に感謝したいです。これからは愛のある人間になります。（川島）◇人との出会いは本当にすばらしいものだと思いました。私はこんな素敵な環境で学べて最高に幸せ者です。何か知る度に知らない事を見つけてまた新しい事を知れる。「見えないものを見る力」をつけるためにこの連鎖で勉強し続けます。（天野）◇震災後もずっと活動してきた皆さんの軌跡を、現場を踏むことによって垣間見られました。御蔵で接した方は「なんとかさせる！」といった活力に溢れており、力をもらえた気がします。皆さんとお話して強く思ったことは、「絶対無理」と言ったらそれまでで、諦めなければどうにかなるということです。やろうという気持ちがなければ何も進まないという、至極当たり前のような事でなかなか気づかないことに気づけたことは、自分の中ですごく大きな事だと思います。（牧山）◇短い間でしたが、本当にかけがいのない時間でした。人と出会うということが本当に素敵で大切なことだと実感し、だからこそ、これから一つ一つの出会いを大切にして、一日一日をかけがいのないものにしようと思います。「また御蔵に来てね」という言葉がとても嬉しかったです。（宍戸）◇御蔵を訪れて人と人とのつながりはとても大事なことだと感じました。そのつながりがあったからこそ今回色々な人に出会えたのだと思います。御蔵で得たことを、これから自分の中で活かしていきたいです。（内田）◇御蔵から帰って自分のノートを見たり、ヒアリングのテープを聞いたりすると、文献では学べないことがぎっしりと詰まっており、現地での調査の重要さを再確認できました。御蔵の方もとても素敵な方ばかりで、また訪れたいと思いました。（神谷）◇震災という辛い体験を話してくださる人に出会い、コミュニケーションって大切だと思いました。普段の何気ない生活の中の家族や友達との時間を大切にしようと思います。普段気づかない大切なことを学び、生涯忘れないようにします。（小林）◇御蔵では多くの方とお話したり被害を受けたものを見たりで、現地に行くことでしか得られない事がたくさんありました。このような機会をいただけて本当によかったです。（吉田）◇御蔵ではたくさんの方に貴重なお話を伺えました。人との出会いは大切で、これからも人との出会いを大切にしたいです。（武田）

全員に共通しているものは、実習に関わってくださった皆さんへの感謝の気持ちです。二泊三日という短くも濃厚な日々は、皆それぞれにとって充実したものでした。本当にありがとうございます。

● まち・コミから

１年目の調査対象は「語り部さんとして活動されている人」、２年目は「産業に携わっておられる人」、３年目の今年は「今までに専修大生の調査にご協力をお願いしていない人」プラス、月刊まち・コミ用に「語り部さんを紹介する記事の執筆」「今回の御蔵調査の報告記事の執筆」と盛りだくさんの内容でした。さらに、空いた時間で町を歩き、気づいたことを記録しました。「月刊まち・コミ８月号」の発送作業もしてくれました。内容の濃い３日間を過ごしたことと思います。

お盆明けに、調査協力者からまち・コミに、うれしい連絡が入りはじめました。学生さんからお礼の手紙をもらったとのこと。調査に協力して本当によかったと、大喜びの人もおられます。

１０年目まで続く専修大生による御蔵調査。さて来年は、どんな調査になるのでしょうか･･･。

阪神・淡路大震災　語り部からのメッセージ　第１回

御蔵通４丁目で被災し、現在御蔵通５丁目で暮らす　岩田 弘子 さん

何かひとつでもお役に立てれば。そんな気持ちで語り部を続けてきました。震災に遭って、娘の家、仮設住宅を転々として４年６ヶ月後に住みなれた御蔵に戻って生活を始めた後に御蔵に携わるボランティアの方、田中保三社長、まち・コミュニケーションの方々と親しくさせてもらう機会ができて、今こうして語り部を続けています。なんだか語り部なんていう呼び方をされると恥ずかしいような気もするのですけれど。本当に、過去のことを伝えていくというのは年々難しくなっているような気がします。最初のうちは元あった私の家の場所へ行って、震災まで続けていた子供服のお店があったことなどを話していました。でも、震災でお店も家も両方焼けてしまったし、「ここがお店でした」と今も言い続けることもできるのですけれど、もう今や住宅街になってしまって、本当に跡形もないから自分自身でも説明のしようがなくなってしまったんです。もう本当に体験したことを皆さんにありのまま伝えるくらいしか。

マグニチュード７．５の揺れでガーンと突き上げられて。当時二階建ての長屋の一番端に住んでいた私は、一人で二階に寝ていました。急に訳の分からない揺れに襲われて、家を潰しにこられたのかと思い、もうただ「やめて」と叫ぶしかありませんでした。揺れがおさまって家から出ようとしたら、二階がないんです。もう完全に潰れてしまった状態で。一階に寝ていたらと思うとぞっとします。あんな大きな地震が神戸にくるなんて。近所の人と声を掛け合って外が明るくなりだした頃に一目散に家から出ました。着の身着のまま、靴も履かずに素足のままで。外に出てから寒いということに気づきました。それくらい、もう頭が真っ白の状態だったんです。外に出てまもなくしてからものすごい勢いで家が焼けてきました。それで、もうここにはいられないと、避難した皆で避難所の学校に向かいました。それからは娘のところに行きまして、皆で助け合いながら、避難する場所がないおばあさんを一緒に娘の家に連れて行ってしばらく一緒に住んだりしました。

あの地震を体験して痛感したのは、近所づきあいが命を救ってくれるな、ということです。それから、思いやりの心。この二つが本当に生死を分けたのではないかと思います。

語り部をやっていて、若い人たちに話をする機会が多いのですけれど、本当に若い人たちにエネルギーをもらっているなと感じます。最近は地震に関することを色々学んできてくださる人たちも増えました。町を歩いているとお話をした子供さんたちが寄ってきてくださったりもします。そんなときはやっぱり、この活動を続けていてよかったと思いますね。最近日本の色んなところで地震が頻繁に起きていますし、私が当時の体験を話すことで地震を体験したことのない方たちが今後、備えあれば憂いなしの気持ちになってくれて、少しでもお役に立てたらなと思っています。

まち・コミおすすめBOOK

おおくぼ学　叢書I

『おおくぼ錦眼鏡
―おおくぼから世界が始まる―』

発行：共住懇　　頒価：1，000円

共住懇は、“多文化のまち”大久保を拠点に、グローバル化のなかで変貌する地域社会（都市コミュニティ）の新しいあり方を追求している市民のボランタリーグループです。（本書１ｐより）

共住懇が主催で2003年から、東京都新宿区大久保という地域をいろんな角度から見て考える「おおくぼ学校」を開催しています。第１期プログラム１０人の講師のうち「地域福祉とまちづくり」につながるテーマで語った講師、麦倉哲氏（東京女学館大学助教授）、山脇啓造氏（明治大学助教授）、片野清美氏（エイビイシイ保育園園長）、佐藤滋氏（早稲田大学教授）の記録をまとめた本です。専門家から見た「おおくぼ」を知りたい方、「おおくぼ」に一歩踏み込んでみたい方はご一読を。

※講師名は本書掲載順

お問い合わせは「共住懇」　〒169-0073　新宿区百人町2-6-7　ラクトビル303
電話：03-3364-4324

大地のつぶやき

〜古民家二題〜

前号のまち・コミは、台湾へ古民家移築の道のり特集号でした。日台の多くの若者が四年前の福井県大飯町での四週間の合宿解体と同じ様に、今度は台北縣淡水鎮で建築工事を通じて交流出来る機会を得られることは素晴らしいことだ。

去る七月二十一日に、日本側は斉藤棟梁はじめまち・コミボランティアから、蔡葉偉鎮長を筆頭に台湾の学生ボランティアへ、古木の梁を担ぎ上げての引き渡し式。三日間古材のチェックを通じて知り合った台湾学生ボランティアの惜しみない作業力に清々しさを覚え、感銘を受けた。日本の約百年前の工人が、建て主と知恵の限りを尽くして作った古民家を台湾に再生させる。そしてそこには水上勉文庫があり、陳舜臣文庫が備わっていて、日台の老若男女が読み耽っている。文化交流の場として、古民家が役立つことを夢みて活動の源泉にしている。

話は変わって、今年三月一日愛媛県宇和島市に講演に行く。三年前にシアトルよりまち・コミを尋ねて来られた一行の中に、森口富雄さんと言う、彼の地で宇和島屋の屋号で商売されている方とご縁が出来た。御蔵の古民家でミニデイをやっていて一緒に食事をした所、この雰囲気がとってもいいと興味を持たれ、その後も二度来られた。シアトル移民八〇年も近づいているので、古民家移築も考えに入れたいという話もあって、講演会のあと宇和島の建築士会の人たちと宇和島の古民家をシアトルに持っていけないか相談した。当日帰り際に薦められて旧木屋旅館を外から見た。外観は古い町にとっても良く似合ういい旅館との印象を受けた。四月十一日に森口富雄さんを交えて宇和島二度目の訪問。石橋市長にもお会いし、目的を語るも、余り乗り気ではない様子。木屋旅館は、後藤新平、犬養毅、夏目漱石、司馬遼太郎、吉村昭等々、凄い人たちが投宿していて、これは宇和島の宝物ではないかと、七月十六日武田則明先生、宮西悠司先生にお出まし願って、逆に文化遺産として残すべしと説得に行く。

株式会社兵庫商会　田中保三

まち･コミ 活動報告　7/31～8/31

7/31　出石市民農園
8/2　出石市民農園
8/3　西明石南町活性化委員会
　まち歩きにスタッフとして参加
8/5　NHK住田氏来訪
8/10　出石市民農園
8/17　出石市民農園
8/19　水上蕗子氏へ大飯民家報告
8/19　都築邸（山梨・古民家）訪問
8/21　修学旅行下見（藤田中学校）
8/24　出石市民農園
8/25　修学旅行打ち合わせ
8/27　区民まちづくり会議出席
8/29　研修受け入れ
　（大阪府社会福祉協議会）

▲8/29研修受け入れ

ご支援、ありがとうございます。　7/25～8/31

●賛助会員(新規･継続)●

武田則明(兵庫県)　大谷成章(兵庫県)　田嶋民子(兵庫県)　高宮城幸雄(山口県)　勝川喜昭(奈良県)
佐藤友一(京都府)　角谷陽子(石川県)　直田春夫(大阪府)　佐藤寿一(東京都)　唐澤和義(東京都)
関根美子(東京都)　秋原孝三(兵庫県)　松原永季(兵庫県)　大島英司(東京都)　千葉桂司(奈良県)
牧紀男(京都府)　紅谷昇平(兵庫県)

●寄付●

和田幹司(兵庫県)

●協力●

社団法人シャンティ国際ボランティア会(東京都)　株式会社兵庫商会(兵庫県)　【順不同･敬称略】

新規賛助会員募集＆更新のお願い

まち・コミでは、さらに活発に活動を行うため、賛助会員を募集し、金銭面でのご支援をいただいています。会費は、事業推進のために活用させていただきます。賛助会員のみなさまには、会員特典をご用意しておりますので、ぜひ賛助会員への登録をお願いいたします。

また、賛助会員は1年更新とさせていただいています。現在賛助会員の方も時期がきましたら、更新をお願いいたします。（期限は、「月刊まち・コミ」郵送時の封筒の、宛名の下に記載していますので、ご確認ください。）

年会費

個人・法人　年間５０００円
学生　　年間３０００円

郵便振替口座番号

００９５０－３－４２７８８

口座名称

「まち・コミュニケーション事務局」

会員特典

◆本誌「月刊まち・コミ」の送付。
◆まち・コミュニケーションに関する、Eメールでの情報送付、WEBの特別ページの参照

よろしくおねがいいたします。

■編集後記　夏休みが終わると早速、修学旅行生が震災学習にやってきます。今年の秋は、どんな生徒たちと出会えるか楽しみです。(戸)

2008年9月1日発行
編集／発行　まち･コミュニケーション
定価　100円
御蔵事務所　〒653-0014
神戸市長田区御蔵通5-5
TEL　078-578-1100／FAX　078-576-7961
東京事務所　〒162-0052
東京都新宿区戸山1-24-1
早稲田大学文学部浦野研究室内
神奈川事務所　〒214-8580
神奈川県川崎市多摩区東三田２丁目1-1
専修大学文学部大矢根研究室内
e-mail　m-comi@bj.wakwak.com
URL　http://park15.wakwak.com/~m-comi/